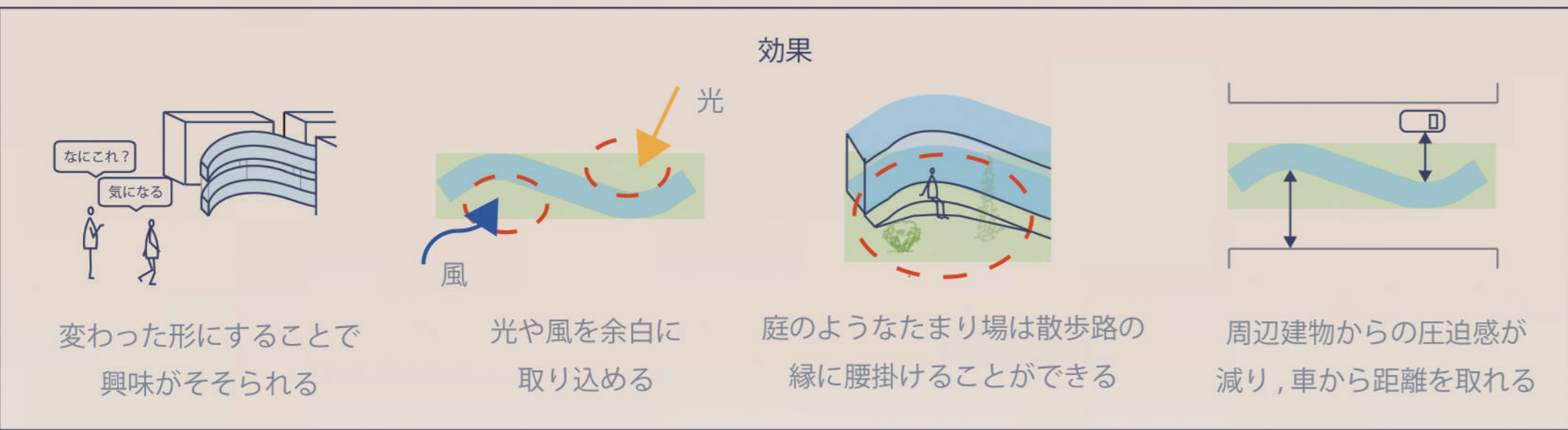


特徴的な建物デザイン

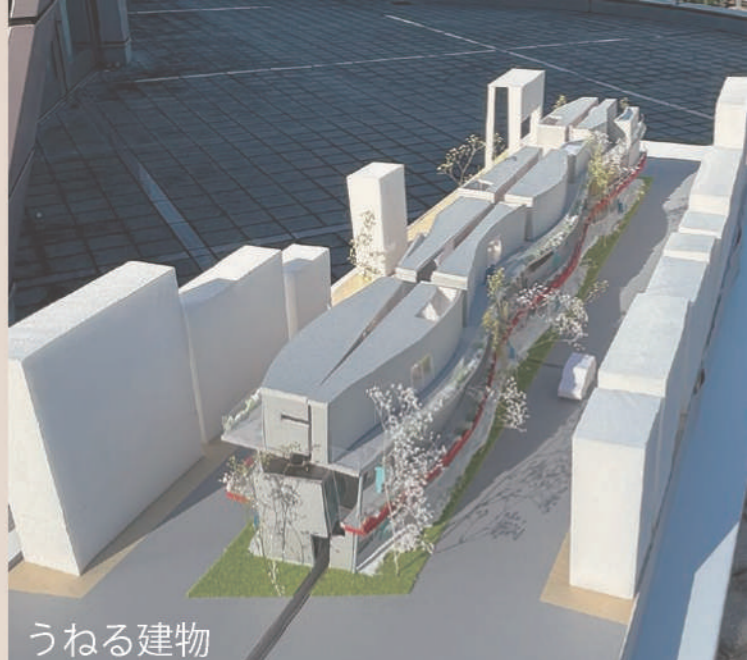
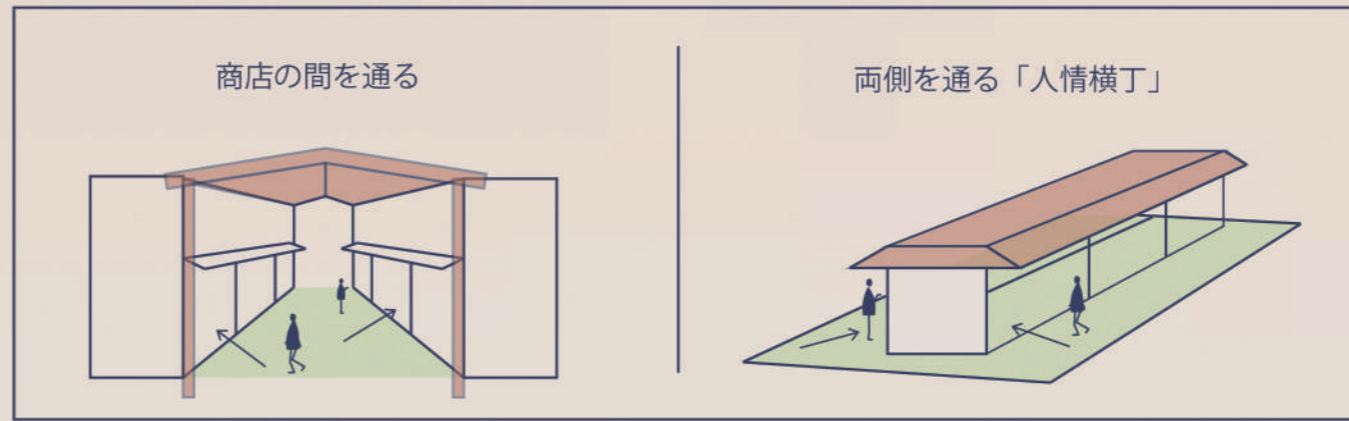
うねらせる

かつて堀が流れていた「人情横丁」の記憶を掘り起こすように、建物と散歩路をうねらせた形状とする。直線的な動線ではなく、緩やかにうねる構成とすることで、人の流れを商店街の内部へと引き込み、歩く中で自然と視線が揺れ動き、店舗が目に入りやすい空間をつくり出す。



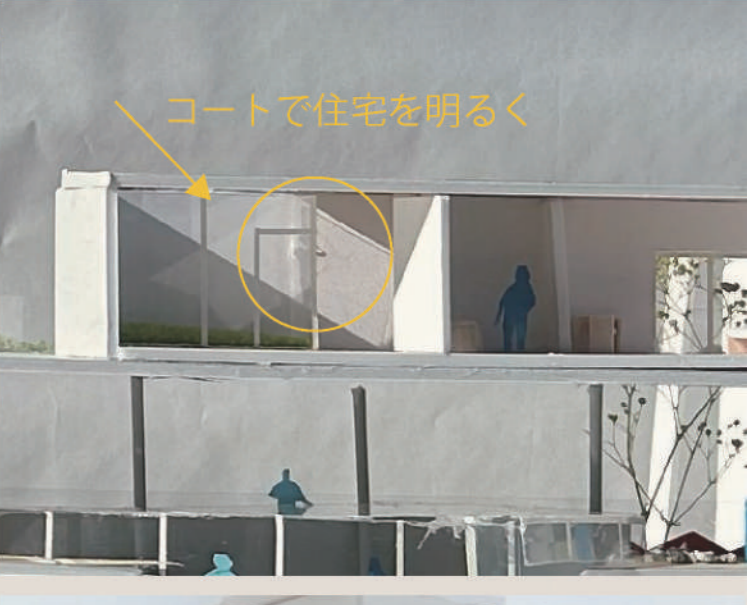
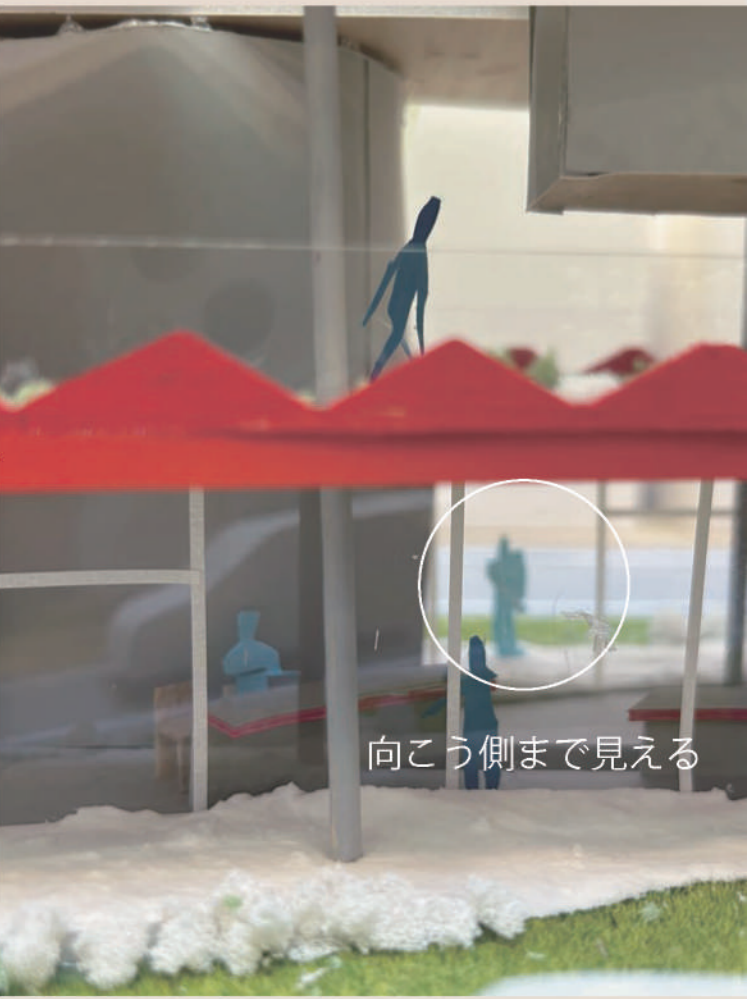
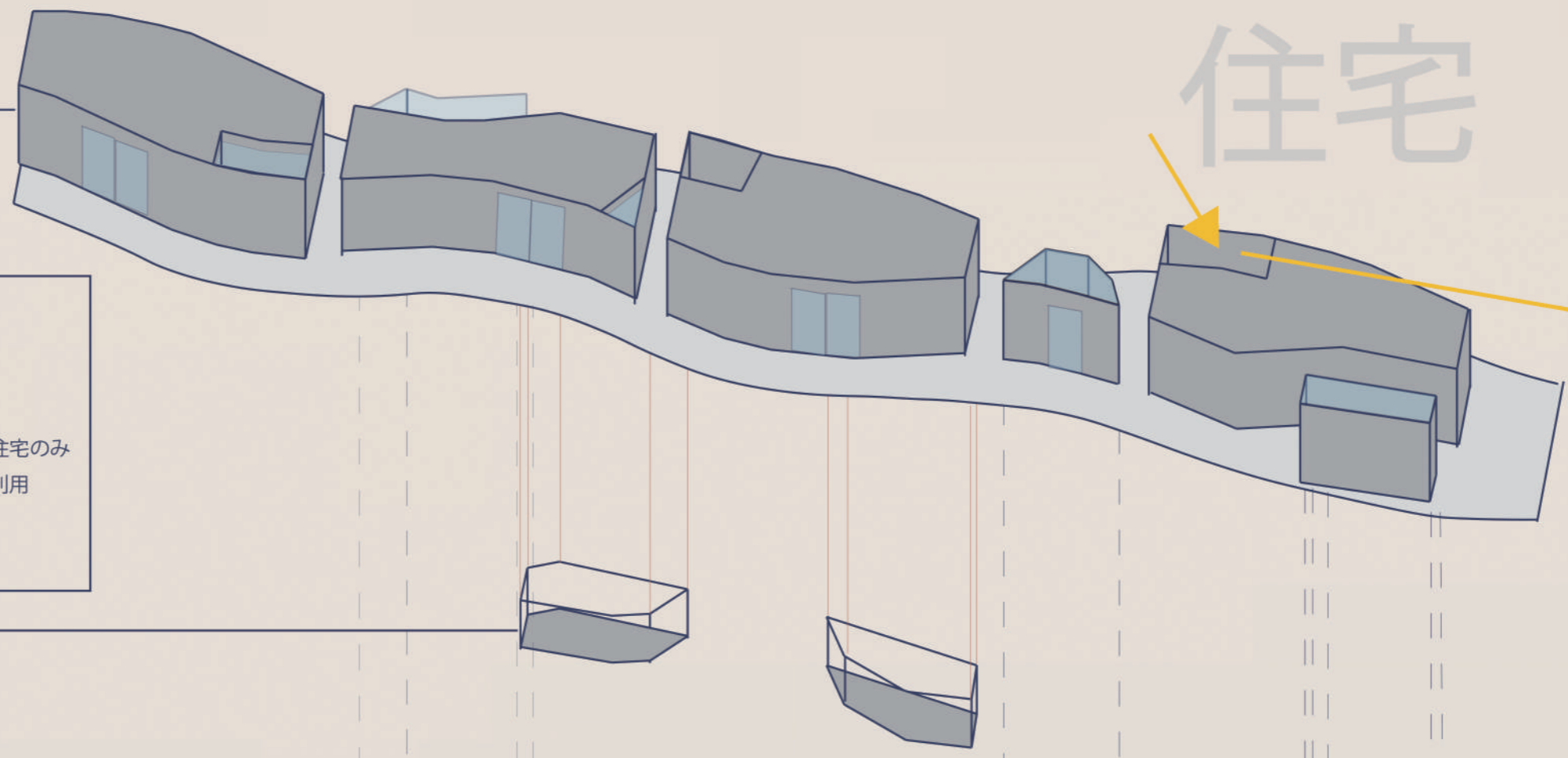
II 両側から入れる商店街

人情横丁では、敷地の中央に店舗が背中合わせに並び、両側から入店できる構成となっている。本計画ではこの特徴を生かし、中央に店舗を配置する。背中合わせによって反対側の様子が分かりにくくなる点に対しては、店舗をガラス張りとし、店内や反対側の気配が視線越しに伝わるようにすることで商店街全体に人の動きとにぎわいを生み出す。



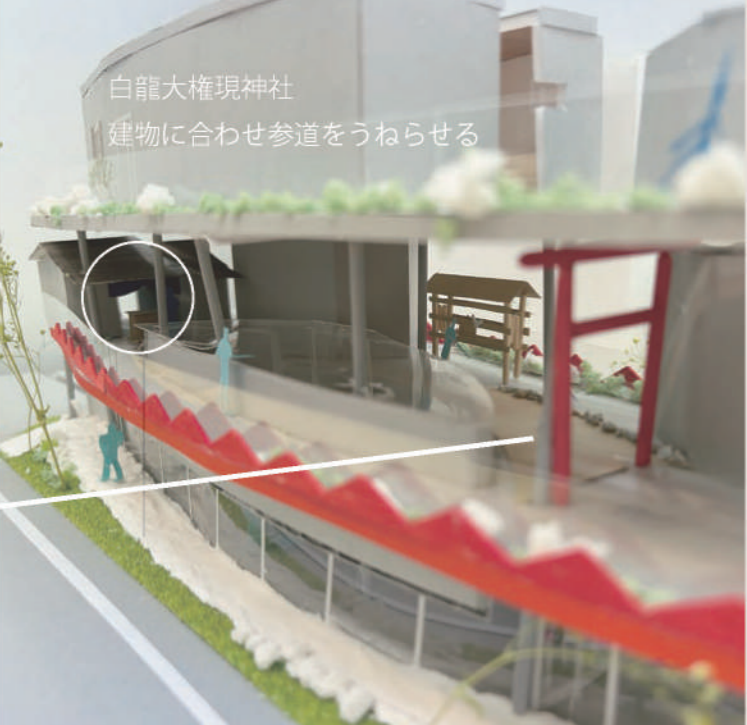
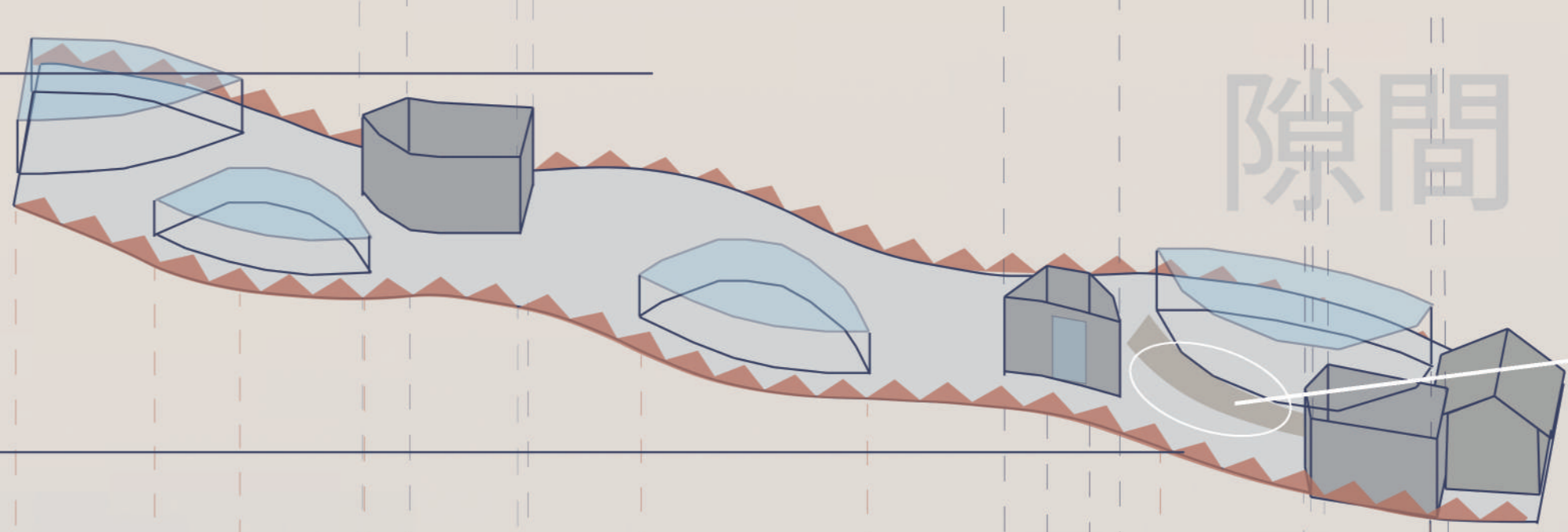
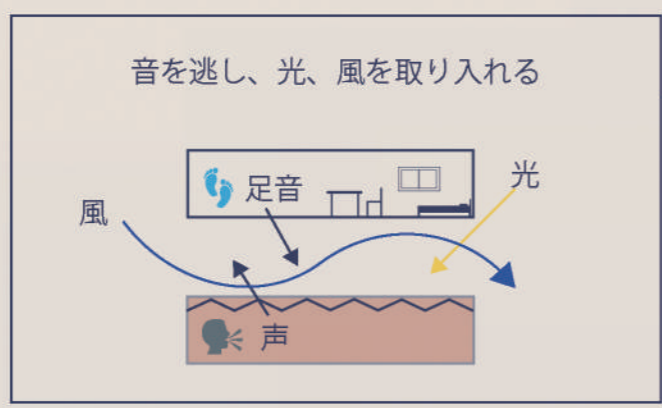
商店街に住む

店舗と住宅をセットにすることで経営者の仕事に打ち込める環境を作ることができ、移動費がかからないなどメリットがある。また、周辺にも日常生活に必要なものが揃う商店街があり暮らしやすい。



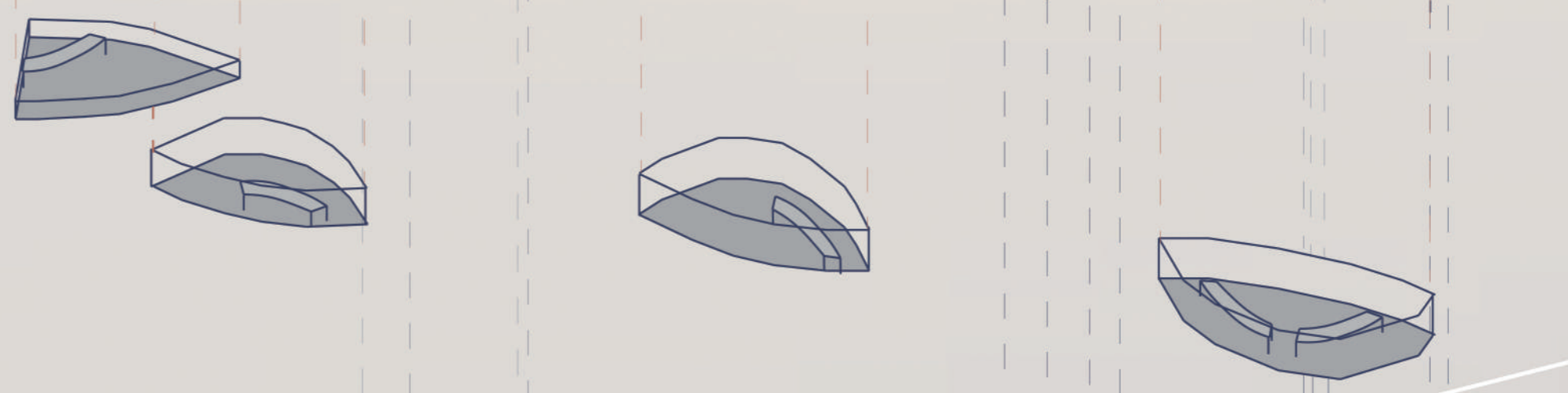
隙間を作る

1階と3階に挟まれた隙間として屋外空間を設ける。1階や3階から張り出したボリュームは、腰掛けや机として使われ、人が通れない部分は猫の通り道となるなど、多様な居場所を生み出す。この隙間は、商店街のにぎわいから住まいへとつながる、空間のグラデーションの役割を果たす。



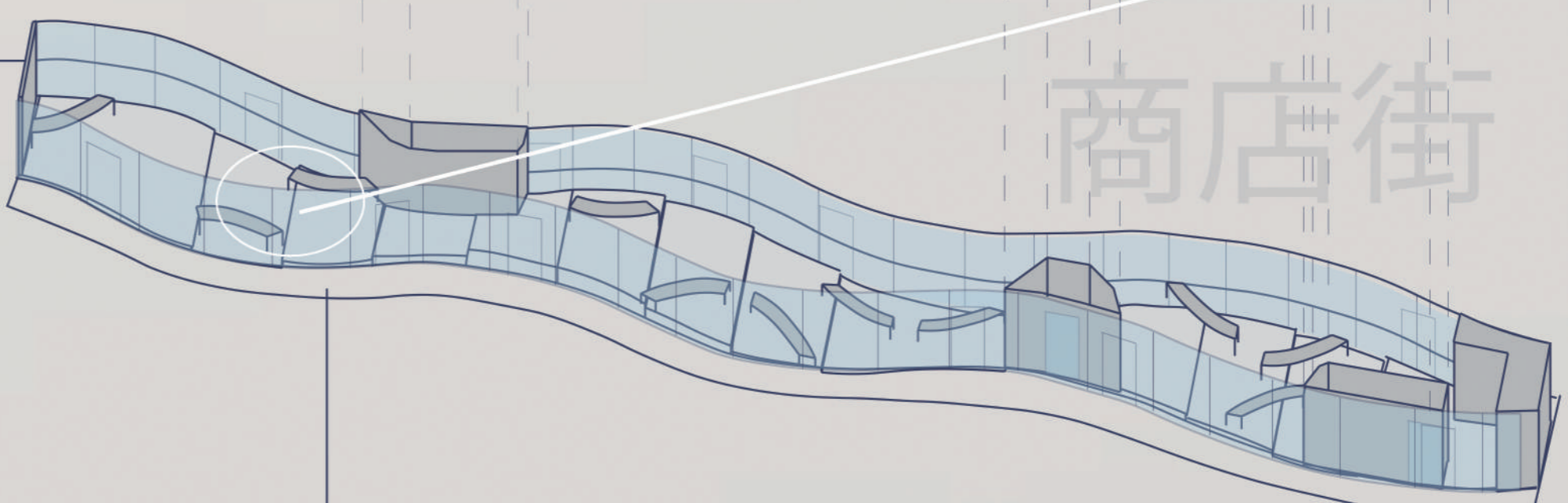
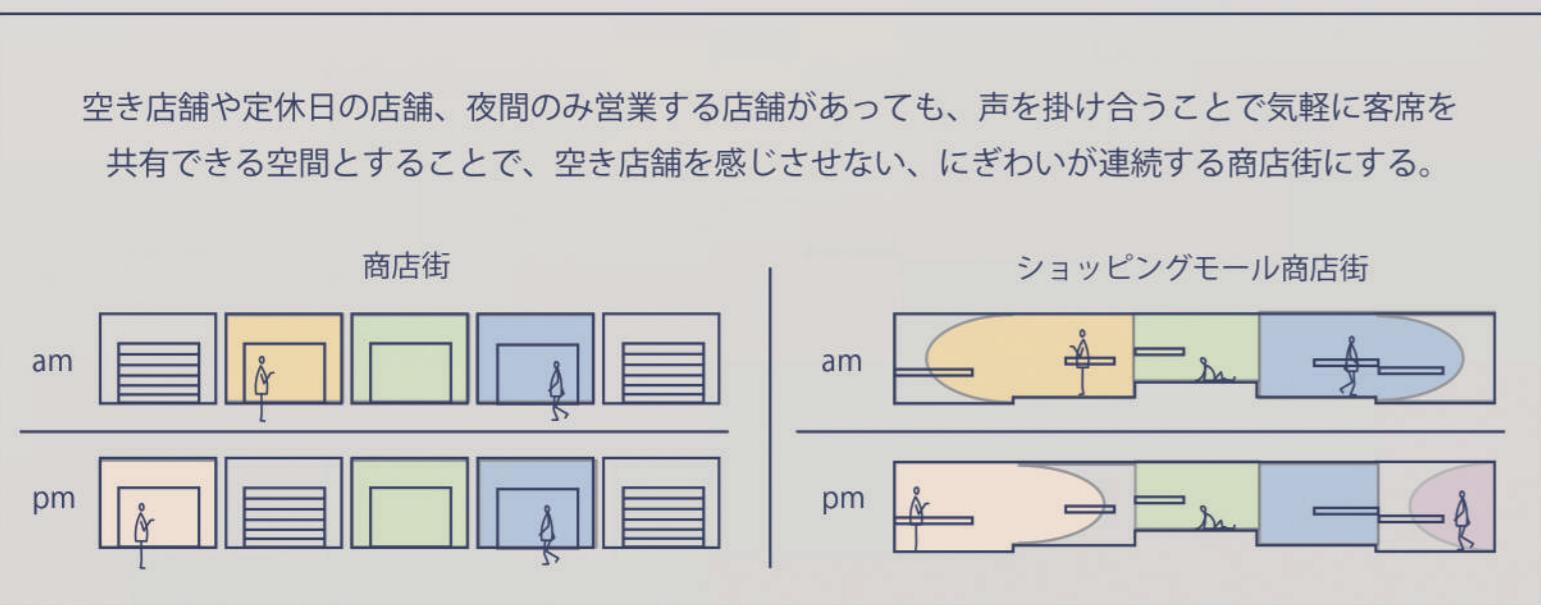
ギザギザ屋根

「人情横丁」の印象的な赤いギザギザ屋根を2階の手すり一部に取り入れ植栽と組み合わせる



ショッピングモール商店街

商店街をショッピングモールのように一体化し、効率的に買い物ができる空間を形成する。同時に、1店舗約4mの間口ごとに設けた段差によって商店間を緩やかに区切り、連続しながらも店舗の存在が感じられる構成とする。



散歩路

緩やかな起伏をもつ散歩路を計画する。緩やかなレベル差とすることでバリアフリーに配慮しつつ、道路との間に適度な距離を生み出し、歩きやすい環境をつくり出す。起伏によって生まれる縁や段差は、思わず腰掛けたくなる椅子となるなど、人の感情を自然に引き寄せる居場所となる。



多様な空間を作り出すボリューム

「人情横丁」に計画する細長い建物に対して、レベル差を変えながら多様なボリュームを組み合わせる。中間に入るボリュームの影響を受け、かがみながら入る天井の低い客席空間など多様な店舗空間が楽しめる。

